

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成27年2月19日 (2015.2.19)

【公開番号】特開2015-4068(P2015-4068A)

【公開日】平成27年1月8日 (2015.1.8)

【年通号数】公開・登録公報2015-002

【出願番号】特願2014-178712(P2014-178712)

【国際特許分類】

C 0 9 D 11/16 (2014.01)

【F I】

C 0 9 D 11/16

【手続補正書】

【提出日】平成26年11月17日 (2014.11.17)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

水と酸性染料を含む墨汁様組成物であって、
脂肪族アミンを含有させたものであることを特徴とする墨汁様組成物。

【請求項 2】

前記脂肪族アミンを含有させることにより、pHをアルカリ領域にしたものである請求項 1 に記載の墨汁様組成物。

【請求項 3】

前記脂肪族アミンの含有量が、墨汁様組成物全量に対して 0 . 0 1 ~ 3 重量%である請求項 1 または 2 に記載の墨汁様組成物。

【請求項 4】

前記脂肪族アミンがトリエタノールアミンである請求項 1 ~ 3 のいずれか 1 項に記載の墨汁様組成物。

【請求項 5】

更に硫酸ナトリウムを含有する請求項 1 ~ 4 のいずれか 1 項に記載の墨汁様組成物。

【請求項 6】

更に芒硝または無水硫酸ナトリウムを添加して得られたものである請求項 1 ~ 4 のいずれか 1 項に記載の墨汁様組成物。

【請求項 7】

芒硝または無水硫酸ナトリウムの添加量が、墨汁様組成物全量に対して 1 ~ 2 0 重量%である請求項 6 に記載の墨汁様組成物。

【請求項 8】

更にキサンタンガム、サクシノグルカン、ラムザン、カルボキシメチルセルロースのいずれか 1 種以上を、墨汁様組成物全量に対して 0 . 0 4 ~ 8 . 0 重量%の範囲内で含有する請求項 5 ~ 7 のいずれか 1 項に記載の墨汁様組成物。

【請求項 9】

前記酸性染料が、綿・ポリエステルに対する直染性がない又は弱い染料である請求項 1 ~ 8 のいずれか 1 項に記載の墨汁様組成物。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 0 8

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 0 8 】

本発明に係る墨汁様組成物は、水と酸性染料を含む墨汁様組成物であって、脂肪族アミンを含有させたものであることを特徴とする。加えて本発明においては、前記脂肪族アミンを含有させることにより、pHをアルカリ領域にしたものであることが好ましい。更に本発明においては、前記脂肪族アミンの含有量が、墨汁様組成物全量に対して0.01～3重量%であることが好ましい。また前記脂肪族アミンがトリエタノールアミンであることが好ましい。

加えて、本発明に係る墨汁様組成物においては、更に硫酸ナトリウムを含有することが好ましい。または本発明に係る墨汁様組成物において、更に芒硝または無水硫酸ナトリウムを添加して得られたものであることが好ましい。これにより、ウール繊維への染着をも抑制することができ、洗濯消去性の良好な墨汁様組成物を提供できる。また前記芒硝または無水硫酸ナトリウムの添加量が、墨汁様組成物全量に対して1～20重量%であることがより好ましい。更にキサンタンガム、サクシノグルカン、ラムザン、カルボキシメチルセルロースのいずれか1種以上を、墨汁様組成物全量に対して0.04～8.0重量%の範囲内で含有することが一層好ましい。

また本発明において、前記酸性染料が、綿・ポリエステルに対する直染性がない又は弱い染料であることが好ましい。